

八 奚仲造車

奚仲、車を造る

月庵和尚、僧に問う、

「奚仲、車を造ること、一百輻。

両頭を拈却し、軸を去却して、

甚麼辺の事をか明らむ」。

無門曰く、

「若他し直下に明らめ得ば、

眼、流星に似、

機、掣電の如くならん」。

頌に曰く、

機輪転ずるところ、達者も猶お迷う。

四維上下、南北東西。

# 八 奚仲造車

奚仲、車を造る

ある時、月庵和尚が僧に尋ねた、

「奚仲という人は百台もの車を造ったといい、

しかもまた車の両輪も車軸も取り外してしまったというが、

いったい彼はそれによつて

如何なる真理を明らかにしたのであろうか」。

無門は言う、

「もしも直ちにそれを分かることが出来るならば、

その眼力の早さたるや流れ星のようだし、

そのハタラクキの素早さも稲妻のようであるに違いない」。

頌うたつて言う、

ハタラクキの輪の転変に、

達人・名人追いつけぬ。

四方八方どこまでも、

こことおもえばまたあちら

「無門関」岩波文庫より

改行・ルビの一部追加は金子の判断によ